

◎完成した京都市街路工事

六大都市の一たる京都市は夙に土地區劃整理を企畫してゐたが、大正九年都市計畫法が施行せらるゝや懸々之に依て、交通衛生保安等の上から大改善を施して、近代都市としての態形を具備した新都市の實現を期することとなつた。併し一般都市の病根たる財政的窮迫は、獨り京都市のみを例外たらしめることはない、否染色、機業の外特筆すべき生產的事業を有しないで、寧ろ平安以來退嬰的空氣の漲つて居る同市に於ては特に財政困難であつたけれども、市當局は市民の福利増進の爲に大英斷を以て、愈々具體的計畫を樹て、計畫路線を十五に分つて、事業費總額三千七百萬の巨費を投じ、大正十年度から十九年度に至る十箇年繼續事業として之が完成を期し、今既に實施の途次にある。其の内第七號線（今出川鳥丸東入下る立武町小山上總町間）及第一號線の一部（小山上總町出雲路内河原町間）は工事費百二十七萬圓を費して十二年度に竣功し第四號線の一部（自寺町至河原町今出川通）及び第五號線の一部（自今出川至丸太町河原町通）も亦工事費百五十萬圓を以て十三年度に於て竣工を見たのである。竣工した各路線はさすがに堂々たるもので、十年後には於ける京都市街

路の壯觀想ふべしである。併し工事を了へた部分は未だ一小部分で前途尚遠遠である。幸に滯なき成功を遂げ、京都市民の利福愈增進せん事を希望して已まない次第である。（小坂生）

◎内務省土木試驗所の近況

土木試驗所に於て昨年度中府縣其の他より依頼を受け試験を行ひたる件數は瀝青質材料に關するもの五十一件、非瀝青質材料に關するもの百三十五件で、之等は孰れも、該年度内に試験を完了したものであるが、猶且下試験中に屬するもの瀝青質材料で四十九件、非瀝青質材料で五件を算してゐる。さうである、此外試験所として特に研究に着手したもの九件あるが主として瀝青質材料に關するもので一部若は全部の研究を了りたるもの既に四件ある由であるが、詳細なる結果は試験所の彙報で發表する筈である。

尙現在試験所の設備としては室内外に於ける材料試験に必要なものは一通備へてゐるが、猶機械の増設の必要に迫られ目下銳意其の充實に努めてゐるさうである。然し乍ら元來道路試験は室内試験のみにて其の目的を達し得るものでない、どうしても實驗道路を造り綿密なる調査を遂げ最も經濟的な道路の築造方法を考究するの必要がある。

扱て現今我國大都市内街路に於て工費と壽命の兩方面から考へ最も經濟的な鋪装を施さうとすれば多大の費用と時日を要するのである。然るに假令その鋪装の壽命が短かくして多少不經濟であつても、僅少な費用で短時日の間に施行することが出来たとすれば、經濟上の計算に入ることの出来ない所の衛生上、美觀上其の他の點から現在の道路狀況に鑑みて、裨益する所が多大ではなからうか、此の考から最も簡単な比較的効果の早い鋪装を、見出す爲に本年度に於て東京市に接続する主要なる放射道路に試驗所の手で、最も簡単なる方法で種々の鋪装工事を施すために着々其の準備を進めてゐる事である。

阪神を結ぶ十五間道路

右に本丸三層櫓を仰ぎ、左に坂下門と紅葉山の翠色を望むといふ眺で、殊にその新道路の異なつてゐる點は、四隅に高さ二十尺の石造の噴水塔が建られることで、遠くから眺めると優美な橋柱のやう見える、この噴水塔は直徑一間の柱の下部をくり抜いて水溜りを作り、その中に入つて水を飲み顔を洗ふ漏斗を入れるやうになるので、是まで例のないものである。

◎道 路 義 聞

東京新名所行幸道路

東京驛の正面和田倉門と馬場先門との間に濠を渡つて通ずる行幸道路は、その形式がハイカラで、出來上つた上は東京新名所の一つになるであらう、道の幅が四十間で兩側の石垣の上には氣のきいた鐵のてすりが設けられ、高速車道と普通車道との間には銀杏の並木を植え、東京驛から宮城を望むと

阪神間の中樞交通路である阪神國道工事は、目下着々工程を進め三月末現在では全工程の約七割弱を終了してゐる、大阪福島より新淀川東岸に至る部分は既に十五間のコンクリート鋪装の堂々たる國道が出來上り、新淀川の橋脚工事は日を追て完成に近づきつゝある、それより以西蘆屋川に至るまで阪神間を打通す幅員十五間の大道路が蜿蜒として約四里の間續きその土工々事は既に完成大して今では蘆屋川住吉間の土工々事を進めてゐる。これで全體の四工區の内第一第二兩工區の土工々事は終り、第三工區の約五割も完了してゐる。この第三工區の残り半分と第四工區も既に土地の收用家屋の立退きを終つてゐるから、本年中にはこの土工々事は全部終了する見込である。一方橋梁工事はその設計が出來上り、近